２０２３年　１０月号

関東学院六浦こども園

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ（エレミヤ31:21）

人になれ　奉仕せよ

聖　　句：	あなたがたの光を人々のまえに輝かしなさい。　（マタイによる福音書５：１６）	
保育目標：	０歳児	・周りの様子を感じて、色々なことをしてみる。
	１歳児	・友だちや保育者と楽しんで身体を動かして遊ぶ。
	２歳児	・自然の面白さや季節の変化を感じて楽しむ。簡単な身の回りのことをやってみようとする。
	３歳児	・季節を感じ、身体を動かす心地良さを感じる。リズムや音楽に合わせて動く。
	４歳児	・友だちと一緒でも一人でも、夢中になって遊びを探求する。
	５歳児	・静と動の両方の時を豊かに心地良く過ごす。絵本や物語をゆっくり楽しむ。

真夏の厳しい暑さもだんだんと和らぎ、外で身体を動かすのが気持ちのいい季節となりました。それでもまだ、暑い日も多くそのような日は子どもたちも自然と水場に集まり、心地よさを感じて過ごしています。

ある日、いつものように水遊びをしようとはと組のＨくんが水道にやってきて、上手に水道をひねると、持っていたボトルにちょろちょろと水が注がれていくのをにこにこしながら繰り返し楽しんでいました。そんな中、水遊びをしていたＳちゃんが、水がなくなった洗面器を持ってＨくんの隣の水道にきましたが、蛇口が開かず「でない～っ!!」と振り返り、私に訴えてきました。すると、私が蛇口を開けてあげようと手を伸ばすよりも早く、隣から「はいどうぞ」という声がしてＨくんが自分が水を入れていたボトルをＳちゃんに差し出してくれたのです。困った顔で訴えていたＳちゃんの顔はすぐに満面の笑顔になり、ボトルを受け取ると自分の洗面器に水を注ぎ入れていました。Ｓちゃんの思いを感じて、また入れてあげるＨ君。後ろから見ていた私は、心が温かくなり、思わずにこにこしてしまいました。

気が付くと、今度は大きなビニール袋の口を上手に開けて手に持ち、座っているＨくん。そして、先ほどのボトルに水をいれて、せっせとビニール袋に注ぎ入れているＳちゃんの姿がありました。袋の中の水が沢山になると、今度はH君がボトルを受け取り、水道へ。二人の楽しそうな声は、ずっと聞こえていました。

自分で用意していたボトルを、友だちの為に貸してくれたＨくんの優しさはもちろんですが、隣から聞こえてきた「(水が)出ない～」という声に、“自分の持っているこれ（水の入ったボトル）をあげればＳちゃんも役にたつかもしれない”ということに気付いたことに感心してしまいました。この日、少し私が出遅れてしまったことで、Ｈくんの優しさや観察力、Ｓちゃんとのつながりなど、新しい発見や関わりに出合うことができました。

乳児クラスで過ごしていていつも感じることは、どんなに小さくても子どもたちは周りの事をよく見ていて、よく考えているなということです。ことばに出せないたくさんの思いを持って子どもたちは生活しています。子どもたちの姿から、いつも沢山の発見や気づきがあります。ただ、私たちはだんだんと先を見通すことが出来るようになると、次に必要なことは何だろう？と先回りをして、ついついしてあげたくなったり声をかけたくなったりすることがあります。そのような時、子どもたちの視線の先を一緒に見つめ、表しを少し待つことで、その子の新しい姿に出会えたり、持っている力を発揮する出来事が生まれたりするのだと改めて感じます。

春から新生活が始まり、心配や不安な気持ちを持ちながら生活してきた子どもたちも、それぞれに自分の居場所や、大好きな人やことに出合いながら、半年が経ちました。安心して過ごせるようになってきた子どもたちは、日々色々な姿を私たちに見せてくれます。その姿は、大人にとって喜びに繋がったり、困惑することも・・・。子どもから溢れ出てくるその表しがきっと子どもたちの成長の種なのだと思います。これからも、その子どもたちの力を信じて成長を支えていける保育者でありたいと願っています。

主任　　星野　陽子